

Kahchun
WONG

Dmitri
SHOSTAKOVICH

Tokyo

東京定期演奏会
783rd



JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

SUBSCRIPTION CONCERTS

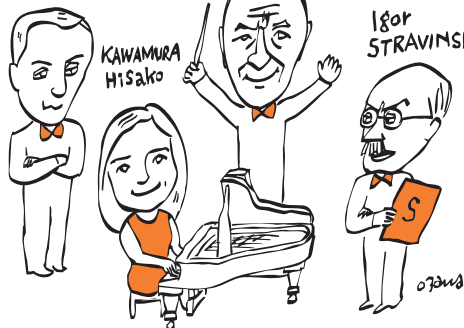
2026.9

Sergei
RACHMANINOV

Okko
KAMU

KAWAMURA
Hisako

Igor
STRAVINSKY



Yokohama

横浜定期演奏会
420th

演奏中のマナーにご協力をお願いいたします

電源OFF



アラームOFF 電源OFF

演奏中は携帯電話や時計のアラームなどデジタル機器の電源はお切りください。

音にご注意を



ビニール袋

靴にしまう、またはいすの下へ置くなど物音がたたないようにご注意ください。



飴の袋

客席内の飲食はご遠慮いただいております。お咳の予防等ご利用の際は、演奏前にお口の中にいれるか、あらかじめ袋から出しておく等のご準備をお願いいたします。



マジックテープやファスナーの音

開け閉めの音は意外に響きます。演奏前にご確認ください。



鈴などアクセサリがついたストラップ

靴にしまうなど鳴らないようにご注意ください。



補聴器の音

ハウリングをおこさないよう、しっかりと装着し、適切な音量に調整をお願いいたします。

声と拍手にご注意を



私語



せき

演奏中の私語はご遠慮ください。咳をする時はハンカチなどで口を覆って響かないようご配慮を。また、拍手やブラボーは指揮棒がおりてから。最後の余韻までお楽しみください。

撮影禁止



録音禁止



録画禁止



写真撮影禁止

演奏中の録音・録画・写真撮影は、固くお断りしております。
※演奏終演後に写真撮影可能な公演がございます。
詳細は公演時にご案内いたします。

周囲にご配慮を



身を乗り出さない



つばの広い／高さのある帽子

席から身を乗り出したり、着用している帽子が後ろの席の視界を遮っていることもございます。周囲にご配慮を。



終演時のカーテンコールで写真撮影が可能です。

撮影はスマートフォン・携帯電話のみ、自席にご着席のまま行い、動画の撮影はご遠慮ください。

撮影に関しては以下のルールを守ってくださいますようお願い申し上げます

- ・アンコール演奏中の撮影はご遠慮ください
- ・スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影はご遠慮ください
- ・フラッシュの使用はお控えください
- ・動画の撮影はお控えください
- ・撮影の際、手を高く上げるなど周りのお客様のご迷惑になる行為にご注意ください
- ・自席にご着席のまま撮影をお願いいたします
- ・SNS等に掲載する際は、ほかのお客様のうつりこみにご注意ください
- ・自撮り棒などの使用はお控えください
- ・演奏中はスマートフォン、携帯電話の電源をお切りください(録音・録画は違法行為です)

SNSに投稿いただく際は、ハッシュタグ #日本フィル #japanphil をつけてください！

CONTENTS

目次

東京定期演奏会プログラム	4
写真プレイバック- 2026年5月～7月 -	9
次回東京定期演奏会 指揮者にインタビュー 山田 和樹編	10
横浜定期演奏会プログラム	12
歴史でひもとく!〜クラシックこぼれ話 by小宮 正安	17
次回横浜定期演奏会	18
あらゆる人々へ、世代へ、地域へ、世界へ	19
今後の日本フィル出演公演	20
感動の共有 ~ご支援のお願い~	29
日本フィルハーモニー交響楽団 特別会員ご芳名	30
日本フィルハーモニー交響楽団 パトロネージュご芳名	34
東京・横浜秋冬定期演奏会一覧	36
メンバーズ TVU チャンネル 配信一覧	37
インフォメーション	38
オーケストラ・プロフィール	39
楽団紹介	40

ご来場お客様アンケートのお願い

公演ごとに抽選で
招待券をプレゼント

本日は、演奏会へご来場いただき、誠にありがとうございます。
3分程度のアンケートを、二次元コードを読み取っていただき、
演奏会から5日以内にご回答をお願いします。



第783回東京定期演奏会

783rd Tokyo Subscription Concerts

2026年 9月11日(金) 19:00 開演

9月12日(土) 14:00 開演

サントリーホール

7:00p.m., Friday, 11th & 2:00p.m., Saturday,
12th September, 2026, at Suntory Hallプレトーク「本日の聴きどころ」 金曜日/18:30~
土曜日/13:20~東京定期演奏会では、毎回これから始まるコンサートの聴きどころや
楽曲解説、アーティストの素顔等を紹介いたします。
今月は音楽学者の山本明尚さんです。ショスタコーヴィチ 交響曲第7番《レニングラード》
ハ長調 op.60(約80分)Dmitri SHOSTAKOVICH Symphony No.7 "Leningrad" in C-major, op.60
I Allegretto
II Moderato (poco allegretto)
III Adagio
IV Allegro non troppo

休憩はございません

指揮 カーチン・ウォン[首席指揮者]
Conductor Kahchun WONG, Chief Conductor
コンサートマスター 扇谷 泰朋
[日本フィル・ソロ・コンサートマスター]
Concertmaster OGITANI Yasutomo, JPO Solo Concertmaster

※当初発表の内容から変更になりました。

◀指揮者インタビューは
こちらから
(7月東京定期プログラム掲載)9月11日(金)公演は
ライブ&アーカイブ
配信あり!Member's TVU CHANNELにて配信
<https://members.tvu.com> 詳細はP37へ*この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムを用意しております。
ご要望の方は主催者までお申し出ください。

主 催 / 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 助 成 /

協 賛 / 株式会社ウテナ 鹿島建設株式会社

TANAKEN株式会社

ホッカンホールディングス株式会社

三井不動産株式会社 UBE株式会社

表紙イラスト / 小澤 一雄

文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

後 援 / 駐日シンガポール共和国大使館

Conductor

指揮

カーチュン・ウォン
[首席指揮者]

Kahchun WONG, Chief Conductor



©山口 敦

シンガポール生まれのカーチュン・ウォンは、舞台におけるその圧倒的な存在感と東西の音楽的遺産を探索し続ける思慮深さにおいて国際的に高い評価を得ている。2023年より日本フィルハーモニー交響楽団の首席指揮者、そして2024年にサー・マーク・エルダーの後任として英国の名門オーケストラ、ハレ管弦楽団の首席指揮者兼芸術顧問に就任。2025年夏、英国タイムズ紙が「最高となる五つ星を超えた六つ星に値する」と絶賛したハレ管弦楽団とマーラー交響曲第2番《復活》でのBBCプロムスへの鮮烈なデビュー公演は記憶に新しい。

2016年マーラー国際指揮者コンクールでの優勝以来、ウォンはニューヨーク・フィルハーモニック、クリーヴランド管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする世界有数のオーケストラに客演。

現代作曲家と異文化対話の積極的な推進者でもあるウォンはニューヨーク・フィルハーモニックとタン・ドゥン《火の儀式》の米国初演、BBC交響楽団と細川俊夫《祈る人》の英国初演を指揮、またドレスデン・フィル首席客演指揮者時代にはナロン・プランチャルーン《影の反映》を委嘱している。ニユルンベルク交響楽団首席指揮者としての最終公演ではムソルグスキー《展覧会の絵》★を五種類の中国民族楽器とオーケストラのためウォン自身が再構築し「クラシック・オープン・エア音楽祭」で75,000人の聴衆の前にて披露された演奏はドイツ語圏公共放送チャンネルおよびバイエルン放送を通じて国際的に放送された。

日本フィルとマーラー交響曲第5番、ハレ管弦楽団とブリテン《パゴダの王子》、ブルックナー交響曲第9番、マーラー交響曲第2番《復活》の録音がリリースされている。

★第414回名曲コンサート(10月24日)で日本初演

2026年10月24日(土) 14:00

サントリーホール

指揮:カーチュン・ウォン[首席指揮者]

ピアノ:務川 慧悟 打楽器:ベンジャミン・ウー* 笛子:リー・チンツン*

揚琴:マ・フアン* 胡琴:タン・マンマン* 琵琶:ワン・スーウェン*

チャイコフスキー:ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 op.23

ムソルグスキー(カーチュン・ウォン編曲):組曲《展覧会の絵》*

ショスタコーヴィチ：交響曲第7番《レニングラード》ハ長調 op.60

ドミトリー・ショスタコーヴィチ(1906-1975)は、ソヴィエト時代のロシアを代表する作曲家である。革命以前のサンクト・ペテルブルク(1924年にレニングラードと改称)に生まれ、1917年の革命後に音楽院に入学、卒業作品として10代で書き上げた交響曲第1番によって一躍世界にその名を知らしめた。しかしその生涯は、ソ連という抑圧的な国家権力との緊張関係に彩られていた。

1936年、オペラ《ムツェンスク郡のマクベス夫人》が共産党機関紙『プラウダ』で名指しで糾弾されると、作曲家としての地位を失いかねない深刻な危機に立たされた。スターリンによる粛清の嵐が吹き荒れるなか、国家の文化政策に反すると見なされた芸術家も、逮捕や追放、処刑の対象となりえた。1937年に作曲した交響曲第5番で名誉を回復して以降も、体制の要求と自らの芸術との間で危うい綱渡りを続けた。

そのため彼の音楽は、表向きの明快さの裏に別の声を潜ませているのではないかと、今日まで問われ続けている。彼の音楽が世界中で演奏され続けているのは、それが歴史的な謎解きの対象であるだけでなく、恐怖や悲しみ、皮肉、そして希望といった、普遍的で切実な感情を伝えているからだろう。一筋縄ではいかない作曲家——それがショスタコーヴィチである。

交響曲第7番は1941年7月から12月にかけて書かれた。同年6月22日、ナチス・ドイツは突如ソ連に侵攻し、9月初めには作曲者の故郷レニングラードを完全に包囲する。以後872日に及ぶ封鎖で、膨大な数の市民が飢餓や寒さ、砲爆撃によって命を落とした。著名人だったショスタコーヴィチには早くに疎開する道もあり、実際、多くの芸術家や要人がレニングラードを離れた。しかし彼は音楽院の消防監視隊の一員として屋上で消火当直に立ち、生まれ故郷を自ら守ろうとした。爆撃と砲声のさなか、人々が苦しむ姿を目にしなが、作曲は驚くべき速さで進められた。当初は旧約聖書『詩篇』の言葉を用いる声楽付きの構想もあったが、やがて純器楽の交響曲へと構想を改める。7月19日に第1楽章の下書きに着手し、9月17日には第2楽章を、同月末には第3楽章を完成。第2楽章を仕上げた9月17日の夜、彼はラジオを通じて市民にこう語りかけた。「昨日の朝、私は新しい交響曲の第2楽章を書き上げました。[……]それをお伝えするのは、レニングラードを脅かす危険にもかかわらず、私たちの町の生活は続いている、と皆さんに知っていただきたいからです」。

10月初めになると、ショスタコーヴィチは当局の命令でついに疎開を余儀なくされ、モスクワを経て政府機関や文化人の主要な疎開先となっていたクイビシェフ(現サマーラ)へ移る。戦局が最悪となった秋には筆はしばらく止まったが、12月27日に全曲が完成した。総譜には「レニングラード市に捧げる」と記されている。

初演は1942年3月5日、疎開先のクイビシェフで行われると絶賛をもって迎えられ、翌月には国家最高の荣誉であるスターリン賞第一等が贈られた。楽譜はフィルム撮影されて空輸され、7月19日にはトスカニーニ指揮NBC交響楽団の演奏が全米にラジオ中継される。この曲は、ともに戦うソ連への支持を集める役割をも担ったのである。そして8月9日、封鎖下のレニングラードで、前線から奏者を呼び戻して編成されたオーケストラが本作を演奏し、その響きは拡声器で市中に流された。音楽が戦争という巨大な暴力に対する抵抗の象徴となったのである。

もっとも、この輝かしい成功譚がすべてではない。熱狂の陰で、早くも初演当時から欧米の批評家の間には、その扇動的な作風への辛辣な批判があった。反ファシズムという大義がこの曲に与えた特別な人気は、裏を返せば、音楽があからさまに政治の道具として消費されることへの西側の批評家たちの苛立ちをかき立てたのである。バルトークが1943年に作曲した《管弦楽のための協奏曲》のなかで「戦争の主題」を思わせる旋律を引用し、戯画的に扱ったとされる。戦後の西側では、この曲を戦時宣伝と結びつけた冗長な大作と見る批判が強まり、批評的評価は大きく後退した。

だが作曲者の死後、疎開先クイビシェフで親しく交流したフローラ・リトヴィノワが当時書き留めていた記録が公表された。彼女によれば、ショスタコーヴィチは「第7番は(第5番も)ファシズムについてだけでなく、我々の体制について、およそあらゆる専制と全体主義についての音楽だ」と語ったという。この証言などを背景に、今日では、この曲にナチスの暴力だけでなく、より広く暴力や圧政への告発を聴き取る解釈も示されている。このような解釈のうち、一つだけを「正解」と決めることはできない。こうした多義性こそ、ショスタコーヴィチの多くの作品が今日まで聴き手を引きつける理由の一つとなっている。

【第1楽章】アレグレット ハ長調、4分の4拍子。変形されたソナタ形式。

弦楽器の力強いユニゾンで、堂々とした第1主題が提示される。作曲者によれば、これは戦争前の人々の幸福な生活の姿。行進曲的な曲調は、自信に満ちた足取りを感じさせる。ヴァイオリンが歌う穏やかな第2主題が続き、フルートの独奏が平和で牧歌的な静けさを醸し出す。ところが展開部にあたる場所で、それまでの音楽を遮るように「戦争の主題」と呼ばれる旋律が現れる。小太鼓の乾いたリズムに乗った、おもちゃの兵隊のように他愛ない行進曲が、楽器を増やしなが、何度となく繰り返され、ついには全オーケストラの咆哮へと膨れ上がる。ラヴェルの《ボレロ》を思わせる手法である。破局の頂点で冒頭の主題が金管に叫び返し、戦いが静まると、二つの主題が回想される。最後に遠くから聞こえるような小太鼓のリズムが響き、戦争がなお続いていることを暗示する。

【第2楽章】モデラート（ポコ・アレグレット） 口短調、4分の4拍子。複合三部形式。

一転して室内楽のように親密な口短調の音楽。低弦の規則正しい刻みに乗り、ヴァイオリンが古典的な舞曲を思わせる優雅な主題を紡ぎ、オーガエが物思わしげな旋律で応える。中間部では甲高い小クラリネットが3拍子の踊りをけたたましく吹き鳴らし、金管の行進曲が乱入するが、嵐は去り、冒頭の音楽が沈んだ表情で戻ってくる。

【第3楽章】アダージョ 二長調、4分の3拍子。三部形式。

木管とホルン、ハープによる荘重なコラール（賛美歌風の和音）に、ヴァイオリン群の朗々とした語りが交替する。作曲者が故郷の美しい景観への想いを込めた音楽である。中間部では急き立てる付点リズムの上で楽想が激しく変貌するが、やがて静けさが戻ってくる。

【第4楽章】アレグロ・ノン・トロppo ハ短調～ハ長調、2分の2拍子。自由な形式。

切れ目なく、ティンパニの遠雷のようなトレモロから終楽章が始まる。弦の旋律は次第に熱を帯び、紡ぎ出されるように雄々しい楽想へと変貌する。中間部は3拍子の、バロックの舞曲サラバンドを思わせる悲歌であり、戦争に斃れた人々への追悼のようにも響く。その重々しい足取りのまま徐々に音楽はバルテージを上げ、終結部に至る。第1楽章冒頭の「幸福な生活」の主題がハ長調で堂々と回帰し、本楽章の主題の素材が勝利を高らかに宣言して大団円となる。しかし、これは爽やかな勝利とは言いがたい。ハ長調の主和音（ドミソ）の響きに異質な音（レ♭・ミ♭・ラ♭・シ♭）が加わるとどこか圧迫感のある音像は、祝祭の裏に潜む悲劇を描き出す、ショスタコーヴィチ特有の両義的表現の妙である。

楽器編成：フルート3（ピッコロ持替1、アルト・フルート持替1）、オーガエ2、イングリッシュ・ホルン1、E♭管クラリネット1（クラリネット持替1）、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン8、トランペット6、トロンボーン4、バス・トロンボーン2、テューバ1、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングル、タンブリン、タムタム、シロフォン、ハープ2、ピアノ1、弦楽5部。

5月～7月の公演を振り返ります

*日本フィルのライブ・アーカイブ配信は
Member's TVU CHANNELで。
<https://members.tvuch.com>



1 5月22日、23日 東京定期演奏会

指揮にアレクサンダー・リーブラヒさんをお迎えした5月東京定期演奏会は、ハイドン：交響曲第44番→三善寛：餅つき星（チェロ協奏曲第2番）（チェロ：佐藤晴真さん）→武満徹：群島 S.→R. シュトラウス：交響詩《死と変容》というリーブラヒさんならではのプログラムでした。舞台転換の時間にマエストロのトークも！



3 6月6日、7日 東京定期演奏会

《千夜一夜》とアメリカン・サウンドと題してお届けした6月東京定期演奏会。軽快な音楽とサイの異質ながら自然に身をゆだねるようなコンチェルトをお楽しみいただきました。広上マエストロ、服部百音さん、サイの作品でトルコの打楽器グドゥムを担当された菅谷亮一さんと共にはしゃり！



5 6月27日 横浜定期演奏会

広上マエストロのタクトの下、日本フィル・デビューとなったムン・ボハさんは閃光のようなブルッフのヴァイオリン協奏曲を聴かせてくれました。この日は70周年記念のイベントも開催されました。台風の中ご来場ありがとうございました。



2 5月24日、26日 杉並区交流事業

日本フィルと友好提携を結ぶ杉並区の交流事業の一環として、杉並区が友好交流関係にある小千谷市に弦楽四重奏の演奏をお届けしました。700名以上の方がご来場くださり、熱い歓迎に楽員も大感激！またお伺いできますように。



4 6月21日、22日 創立70周年記念特別演奏会

首席指揮者カーチュン・ウォンの指揮のもと、マーラー交響曲第8番《千人の交響曲》を演奏しました。8名の独唱者をはじめ、日本フィルハーモニー協会合唱団、武蔵野合唱団、東京音楽大学合唱団、杉並児童合唱団という、総勢500名を超える出演者と満席のお客様が一体となり、創立70周年を記念する特別な演奏会となりました。



6 7月3日 さいたま定期、7月4日 横浜定期、7月5日 杉並定期

實川風さんによる優しく品格ある響きのグリーグ、そして西本マエストロとの吹雪の中で揺らめきたいまつのような熱を湛えたチャイコフスキーの交響曲第6番《悲愴》他をお届けしました。コンマスも一緒ににはしゃり！

NEXT CONCERTS

>> 次回東京定期演奏会

第784回東京定期演奏会

2026年 10月16日(金) 19:00 開演
10月17日(土) 14:00 開演
サントリーホール

プレトーク 山田 和樹氏 金曜日/18:30~
土曜日/13:20~

■1回券料金

S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥7,500 C 売完 P ¥5,000 Ys (25歳以下) ¥2,500

※障害者手帳をお持ちの方は割引がございますので、サービスセンターにお問い合わせください。

助成:



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

緊張と静寂をはらむスリリングな音楽体験

間宮芳生:

二重合奏協奏曲

* 日本フィル・シリーズ第16作

バルトーク:

ヴァイオリン協奏曲 第2番 BB117

チャイコフスキー:

交響曲第6番《悲愴》 口短調 op.74



指揮: 山田 和樹



ヴァイオリン: ヴィルデ・フラング

次回東京定期演奏会指揮者にインタビュー!

山田 和樹編

きき手 澤谷 夏樹

2012年から10年にわたり日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者の座にあった山田和樹が、古楽の70周年を寿ぐ。指揮者は、楽団史を記念するにふさわしい演目・出演者を準備している。一方で、そのプログラムにこれまでの指揮者人生を色濃く反映させもする。つまりこの演奏会は、公なる日本フィル史と私なる山田和樹史とが交わったところに据えられていることになる。

楽団の歴史を語る上で省くことのできない事績に「日本フィル・シリーズ」がある。同団草創期の1958年から綿々と続く新作委嘱の営みだ。このたびは、その第16弾にあたる間宮芳生の《二重合奏協奏曲》(1966年)を再演する。

「高校生のとき、吹奏楽コンクールの課題曲の作者として間宮先生の名前を知りました。先生は、僕が音楽監督を務める東京混声合唱団ともゆかりの深い方ですが、僕が東混で手がけた間宮作品はほんの少し。

やがて日本フィルで先生のヴァイオリン協奏曲を演奏することになり、初めて間宮先生にお目にかかりました。相談にうかがうと『他の作品もありますよ』と楽譜や本をどんどんプレゼントしてくださる。『それではこれらの作品もぜひ』と申し上げましたが、残念ながら先生は2024年にお亡くなりになりました。

今回は先生が動き盛りのころに書いた作品に取り組みます。中身は現代風ですが、器は脈々と受け継がれてきた伝統的なスタイル。その発想が面白い。なにより、そこには間宮先生独特のエネルギーが詰まっています。そのパワーには圧倒されますね。

その点で、伝統的なスタイルの中に、その当時の新しい音楽を盛り込んだバルトークのヴァイオリン協奏曲第2番も間宮作品と呼応する。

「70周年をお祝いするにふさわしいソリストとして、僕がいつも共演候補の筆頭に名前をあげるヴィルデ・フラングにオファーをかけました。とにかく忙しい人なので捕まらないかもと思っていたら『オーケーです!』との応え。『それでは好きな曲を』と伝えたら、フラングがバルトークを挙げました。これはやはりすごいことです。あの人、普通には弾きませんからね。没入型。だけど奇を衒っていない。それなのに独特のアプローチ。いつもこちらの想像を上回ってきます。別世界を見せてくれる存在ですね。

日本フィル、チャイコフスキーとくれば、そこには長い演奏伝統がある。

「実は日本フィルとチャイコフスキー作品をほとんど演奏していないんです。第4番をいちどだけですね。チャイコフスキーは、僕の師・小林研一郎先生の十八番、代名詞。『先生の目の黒いうちは国内でチャイコフスキーを演らない』というのが僕の原則です。だからこそ70周年を機に、日本フィルで《悲愴》を振るというのは、一見ふつうの演目に見えますが、僕にとってはとても意義のあることです。

それから、もうひとつ伏線があります。疫病禍で3~4ヶ月、家にこもっていた時期、オーケストラのスコアをまったく開きませんでした。1ページも目にしなかった。ただ不思議なもので、毎日、頭の中に自動的にかかる音楽がある。それが《悲愴》でした。それで『この疫病がおさまったら、すぐにこの曲を演奏しよう』と心に決めたんです。ですが当時、舞台上もソーシャルディスタンスのご時世で、大編成の曲はそうそうできない。ただ思いは持ち続けて。それが、日本フィル、70周年、東京定期、小林先生のレパートリーなどと結びつき、特別な意味合いを帯びました」。

上記の通り日本フィル史と山田和樹史とが、間宮、フラング、小林といった個性的な音楽家を媒介に交わっている。その描線は思いのほか太い。その、墨をたっぷり含んだ筆づかいを、サントリーホールで確かめたい。

第420回横浜定期演奏会

420th Yokohama Subscription Concert

2026年9月19日(土) 15:00開演
横浜みなとみらいホール3:00p.m., Saturday, 19th September, 2026,
at Yokohama Minato Mirai Hall

オーケストラガイド 14:20~

小宮 正安 氏

ヨーロッパ文化史・ドイツ文学研究家。横浜国立大学(大学院都市イノベーション学府・都市科学部)教授。テレビやラジオへの出演や監修、ナヴィゲーターなど、幅広い分野で活躍している。



ラフマニノフ ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 op.18(約33分)

Sergei RACHMANINOV

Concerto for Piano and Orchestra No.2 in C-minor, op.18

I Moderato

II Adagio sostenuto

III Allegro scherzando

休憩(15分) Intermission

ストラヴィンスキー バレエ音楽《春の祭典》(約40分)

Igor STRAVINSKY

Ballet Music "Le sacre du printemps"

I L'adoration de la Terre 大地礼讃

II Le Sacrifice 生贄

指揮 オッコ・カム

Conductor Okko KAMU

ピアノ 河村 尚子

Piano KAWAMURA Hisako

コンサートマスター 扇谷 泰朋[日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster OGITANI Yasutomo, JPO Solo Concertmaster

※当初発表の内容から変更になりました。

*この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムを用意しております。
ご要望の方は主催者までお申し出ください。9月19日(土)公演は
アーカイブ配信あり!Member's TVU CHANNELにて配信
<https://members.tvu.com> 詳細はP37へ

主催 / 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 助成 /

表紙イラスト / 小澤 一雄

文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会後援 / tvk (テレビ神奈川)
協力 / 横浜みなとみらいホール

Conductor

指揮

オッコ・カム

Okko KAMU



©Markus Henttonen

1946年フィンランドのヘルシンキ生まれ。シベリウス・アカデミーにてヴァイオリンを学ぶ。1965年にはヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団首席第2ヴァイオリン奏者、1966年~1968年にはフィンランド国立歌劇場管弦楽団コンサート・マスターを務める。この間独学で指揮法を修め、1969年にはカラヤン国際指揮者コンクールで優勝、指揮者としての国際的な地位を確立する。翌年ニュー・フィルハーモニーオーケストラを指揮してロンドンにてデビュー、以後ベルリン・フィルハーモニーやボストン交響楽団、シカゴ交響楽団など超一流オーケストラから招かれている。これまでにフィンランド放送交響楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、ストックホルム交響楽団、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団、バーミンガム市交響楽団、オランダ放送交響楽団、コペンハーゲン・フィルハーモニーの首席客員指揮者を歴任。また、シンガポール交響楽団首席客員指揮者(1995年)、フィンランド国立歌劇場首席指揮者(1996年)、ローザンヌ室内管弦楽団の首席客員指揮者(1997年)を務める。この間日本へも度々来日し、日本各地のオーケストラを数多く指揮している。

2011/12年のシーズンから2015/16年までラハティ交響楽団の音楽監督を務め、2015年シベリウス生誕150周年記念イヤーには世界各地で演奏、日本でも交響曲全曲公演を開催、その演奏は絶賛された。

CDはFinlandia, Musica Sveciae, BISなどのレーベルで100枚以上のCDを録音し、ナクソスのためにベルヴァルトの4つの交響曲やピアノ協奏曲を録音した作品は、希少な「ディアパソン・ドール」賞を受賞している。

1994年以来スウェーデン王立音楽アカデミーのメンバーでもある。2010年にはフィンランド文化財団賞を受賞している。



©Marco Borggreve

Piano
ピアノ

河村 尚子

KAWAMURA Hisako

ハノーファー国立音楽芸術大学在学中、ミュンヘン国際コンクール第2位、クララ・ハスキル国際コンクール優勝。ドイツを拠点に、ウィーン響、バイエルン放送響などにソリストして迎えられ、室内楽でもカーネギーホールなどで演奏。日本ではP.ヤルヴィ指揮NHK響など国内主要オーケストラと共演を重ねる傍ら、ヤノフスキ指揮ベルリン放送響、ビエロフラーヴェク指揮チェコ・フィル等の日本ツアーに参加。文化庁芸術選奨文部科学大臣新人賞、新日鉄音楽賞、出光音楽賞、日本ショパン協会賞、井植文化賞、ホテル・オークラ賞、2020年には第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞独奏・独唱部門賞、第12回CDショップ大賞2020・クラシック賞、第51回サントリー音楽賞を受賞。主なCDに『ショパン：ピアノ・ソナタ第3番&シューマン：フモレスケ』『ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番&チェロ・ソナタ』『ショパン：24の前奏曲&幻想ポロネーズ』、『月光』『悲愴』を含む待望のベートーヴェンのCDを2019年4月にリリースし、続けて10月にはベートーヴェンの『熱情』等を収めた最新譜が発売された(RCA Red Seal)。

さらに2019年秋に公開された映画『蜜蜂と遠雷』(恩田陸原作)では主役・栄伝垂矢のピアノ演奏を担当している。現在、ドイツ・エッセンのフォルクヴァング芸術大学教授。

オフィシャル・ホームページ: <http://www.hisakokawamura.com/>

解説:小宮 正安

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 op.18

19世紀末から20世紀前半にかけ、稀代の名ピアニストと同時に、作曲家としても活躍した、ロシアのセルゲイ・ラフマニノフ(1873-1943)。自身、没落貴族の家に生まれ、帝政ロシアの落日を若き日に体験することとなった彼は、そうした「不安の時代」を映し出す濃厚な人間感情を描いた作風で、音楽史に大きな足跡を残した。

そんなラフマニノフの代表作の中でも、1900年から01年にかけて作られた『ピアノ協奏曲第2番』は、とりわけ良く知られている。この直前、彼は勝負をかけて作った『交響曲第1番』の初演の失敗やそれに伴う酷評によって、一時は音楽家としてもはや活動不能ほどの精神的ダメージを受けていた。だが周囲の積極的な助けもあり、再起をかけるべく作られたのが、『ピアノ協奏曲第2番』である。

葬送の鐘の響きを彷彿させる第1楽章冒頭に始まり、切なさや憧れ(特にそれが顕著に表れるのが、映画『逢ひき』にも用いられた第2楽章である)が激しく交差した末、第3楽章の終結部分における圧倒的な凱歌に至るという、きわめて劇的な内容。そうした内容が、少年時代から卓越したピアニストでもあったラフマニノフが、それまで自らが獲得してきた全てのノウハウを傾注した技に裏打ちされている。

悪夢を乗り越え、新たな世界に羽ばたこうとしたラフマニノフの切実な願いを宿した『ピアノ協奏曲第2番』は、センセーショナルな成功を収める。またこれが転機となり、ラフマニノフは欧米各地で活躍するようになるものの、それは混乱の一途を辿る祖国からやがて彼が去るという皮肉な出来事にも繋がって行ってしまった…。

楽器編成: 独奏ピアノ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、テューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、弦楽5部。

ストラヴィンスキー:バレエ音楽《春の祭典》

ラフマニノフよりも10歳足らず年下であるとともに、20世紀音楽の代名詞的存在となったロシア出身の作曲家の1人、イーゴリ・ストラヴィンスキー(1882-1971)。19世紀ロマン派の流れを強く汲んだラフマニノフがやがて「遅れて来たロマン派」と呼ばれるようになったのとは対照的に、ストラヴィンスキーはその長い生涯の中で、「原始主義」「新古典主義」「セリー主義」など、20世紀の西洋音楽における新たな潮流の担い手であり続けた。

そんなストラヴィンスキーが書いた作品の中で、彼の名声を決定づけたものこそ、『火の鳥』『ペトルーシュカ』『春の祭典』といった初期のバレエ音楽だ。パリを中心に活動をおこなっていたバレエ・リュス(ロシア・バレエ団)の主催者であった辣腕興行師セルゲイ・ディアギレフ(1872-1929)がストラヴィンスキーの才能を認め、作曲依頼をおこなったのがきっかけ。これにより、当時無名の青年作曲家であったストラヴィンスキーはパリを本拠地に活躍するようになり、その才能を世界に知らしめることとなった。

そんな初期バレエの掉尾を飾る『春の祭典』は、ストラヴィンスキー自身の不気味な白昼夢(「ロシア古代の異教徒の祭典。春の神への生贄に選ばれた処女が、祭司たちの見守る中で死ぬまで踊りつづける」という内容)に着想を得て作曲されたといわれている。何しろ原題の

参加費
無料

シーズンファイナルパーティー

横浜定期恒例の
シーズンファイナルパーティー!

終演後1階客席ホワイエにて出演者のトーク、
楽員による演奏をお楽しみいただきます。
奮ってご参加ください。

※ドリンクの提供は見合わせます

フランス語を直訳すると、「春の人身供儀」となるほど。初演は1913年5月20日、パリのシャンゼリゼ劇場でおこなわれるが、会場に集った聴衆の間では、バレエ史上、さらにはクラシック音楽史上でも語り草になるほどの大スキャンダルを巻き起こした。

何しろそこまでストーリーの内容が忌まわしく、またバレエ・リュスの看板ダンサー兼演出家だったヴァーツラフ・ニジンスキー(1890-1950)の振り付けが、古典的なバレエの優美さを取り払い、原始宗教の踊りを彷彿させる荒々しさに貫かれていたからに他ならない。しかもそこに、文字通り「原始主義」という表現が当てはまるストラヴィンスキーの革新的な音楽が加わったことが、スキャンダルのさらなる原因となった。

ただし物議を醸した、ストラヴィンスキーのそうした革新性の数々は、従来の西洋音楽のあり方を大きく踏み越え、20世紀以降の音楽に多大な影響をもたらすこととなった。そして《春の祭典》自体、バレエ上演だけではなく、単独のオーケストラ曲として、現在では人気レパートリーの1つとなっている。

音楽は大きく2部に分かれ、以下のような内容となっている。

【第1部】大地礼賛

序奏:原始的な春の魔力の如くあえて高音域で書かれたファゴットに先導され、曲中に現れる様々な動機が少しずつ目覚め、複雑な音響の渦が立ち現れる。

春の兆しと若い娘たちの踊り:大地を揺るがすような荒々しい原始的リズムが出現する中、ホルンが先導する旋律が重なり合い、最初のクライマックスが形作られる。

掠奪遊戯:聴き手の想定を打ち破るかのような不規則なリズム、激しく対立し合う音響の中、原始的な略奪婚の模様が生々しく描かれる。

春のロンド:陽炎のゆらめきの中に湧き出る牧歌と、重々しいステップの舞踊が出現する。

敵対する部族の遊戯:全音階的旋律が、異なる調性を同時に鳴らす作曲技法の中に展開され、どぎつい原色を彷彿させる狂おしい響きが噴き出る。

長老の行進:金管の咆哮が長老の到来を告げ、他の楽器群が異なるリズムを同時に演奏しながら歓喜の声を挙げる。

長老の大地への口づけ:突如神秘的かつ不気味な静寂が訪れ、長老の儀式が描かれる。

大地の踊り:神聖な儀式的終わりを受け、群集入り乱れてハレの祭りが盛り上がる。

【第2部】生贄

序奏:第1部終曲に描かれた祭りが終わった後の、脱力感が描かれる。

処女の神秘的な集い:生贄となる処女を選ぶ儀式が、神秘的な緊迫感の中で進められる。

選ばれた生贄の賛美:奇数拍子の変則的なリズムが奇怪に絡み合う舞曲。

祖霊の召喚:威圧的なファンファーレが鳴り響き、祖先の靈魂の召喚が行われる。

祖霊への崇拜儀礼:単調なリズムが刻まれる中、音楽が呪術的な様相を帯びてゆく。

神聖な舞踏(選ばれた処女):生贄の処女が法悦のうちに乱舞して息絶える、異教的かつ熱狂的なフィナーレ。

楽器編成: ピッコロ1、フルート3(ピッコロ持替1)、アルト・フルート1、オーボエ4(イングリッシュ・ホルン持替1)、イングリッシュ・ホルン1、E♭管クラリネット1、クラリネット3(バス・クラリネット持替1)、バス・クラリネット1、ファゴット4(コントラ・ファゴット持替1)、コントラ・ファゴット1、ホルン8(テナー・チューバ持替2)、ピッコロ・トランペット1、トランペット4(バス・トランペット持替1)、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、テューバ2、ティンパニ2、大太鼓、トライアングル、アンティークシンバル、タムタム、タンブリン、ギロ、弦楽5部。

時代に翻弄された2人の音楽家:ラフマニノフとストラヴィンスキー

人類史上、未曾有の大量殺戮と大量破壊が地球規模で繰り広げられた第一次世界大戦中の1917年、ロシアではさらなる大事件が起こる。長年にわたってこの地に君臨してきたロシア帝国が、戦争による食糧難や貧困に苦しむ労働者や農民によって打倒されたロシア革命である。

この革命によって政治体制が大きく変化する中、新たに誕生した社会主義政権を嫌い／あるいは政権から嫌われ、これまでロシアで活躍していた多くの芸術家が、国外に活躍の場を求めるようになった。本日の演奏会で取り上げられるラフマニノフばかり、ストラヴィンスキーしかりである。

ただしラフマニノフもストラヴィンスキーも、ロシア革命が勃発する以前から、ロシア国外ですでに活躍していた。ラフマニノフの場合、それが顕著になったのが1905年以降のこと。この年、ロシアではロシア革命の前兆ともいえる「血の日曜日事件」(生活苦の改善や民主化を求めたデモ隊に対して軍隊が発砲し、多数の死傷者を出した事件)が、帝国の首都だったサンクトペテルブルクで起こる。こうした状況を前に、ロシア国内の政情不安定を顕著に見て取ったラフマニノフは、家族とともにつとめてロシア国外での演奏旅行や作曲活動を展開していった。

また当時ストラヴィンスキーは、サンクトペテルブルク大学で法学を学び、いよいよ卒業という時期を迎えていたのだが、血の日曜日事件に伴う混乱で卒業が一年遅れた。しかもその後、法学ではなく音楽の道に進み始めたストラヴィンスキーは、(曲目解説でも書いたように)既にパリで活躍していた興行師ディアギレフに才能を見出され、パリを本拠地としていった。

このようにラフマニノフにせよストラヴィンスキーにせよ、時代に翻弄される人生を送った。しかも第一次世界大戦後、今度はヨーロッパのそこかしこでファシズムの嵐が吹き荒れるようになると、両者ともにアメリカを拠点にせざるをえなくなる。ロシアからも、ヨーロッパからも遠く離れた異国の地に住んでいるという境遇…。それが音楽に対する考え方も作風も大きく異なっていた2人を結び付け、彼らは1940年代に入ると交流を開始する。だがそれも束の間、1943年にラフマニノフが69歳で亡くなると、その関係も途絶えてしまったのだが…。

血の日曜日事件 ヴラディミール・ワグネル画 1940年▶



第421回横浜定期演奏会

2026年10月31日(土) 15:00開演
横浜みなとみらいホール

オーケストラガイド 小宮 正安氏

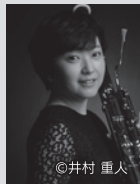
■1回券料金

S ¥9,500 A ¥8,000 B ¥7,000 C ¥6,000 P ¥5,000 Ys (25歳以下) ¥2,500

※Ys席:25歳以下の方が対象のお席です。S席以外から選べます。

※障害者手帳をお持ちの方は割引がございますので、サービスセンターにお問い合わせください。

助成:

文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会モーツァルト:
ディヴェルティメント
二長調 K.136モーツァルト:
協奏交響曲 変ホ長調
(オーボエ、クラリネット、
ホルン、ファゴットのための)
K.297bベートーヴェン:
交響曲第7番
イ長調 op.92指揮:小林 研一郎
[桂冠名誉指揮者]オーボエ:
杉原 由希子
[首席奏者]クラリネット:
伊藤 寛隆
[首席奏者]ホルン:
信末 碩才
[首席奏者]ファゴット:
田吉 佑久子
[首席奏者]

小林研一郎マエストロと日本フィルとの絆の証。

日本フィルとともに数えきれない名演を重ねてきた小林研一郎。長年の信頼関係に裏打ちされた音楽づくりが、ホールに輝きをもたらすでしょう。前半のモーツァルト(偽作)《協奏交響曲》では、日本フィルが誇るオーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットの名手たちが共演し、それぞれの音色の魅力と緻密なアンサンブルを堪能いただけます。重なり合い、響き合う音が織りなす、まさに“対話”の音楽。その繊細なやり取りに耳を傾けてみてください。

後半にはベートーヴェンの「交響曲第7番」。明快なリズムと活力に満ちたこの傑作を、小林マエストロの燃えるような指揮がさらに躍動させ、日本フィルのアンサンブルと共に高揚感あふれるクライマックスへと導きます。オーケストラが輝く、音楽の祝祭をお楽しみください。

あらゆる人々へ、世代へ、地域へ、世界へ

すべての人に音楽を—日本フィルの活動—



音楽でつながる、地域とともに歩む

日本フィルは、さまざまな地域で、音楽を通して人々とつながる活動を続けています。その形は一つではありません。自治体との連携、市民の皆さんとつくる公演、学校や福祉施設への訪問、被災地での継続的な活動など、それぞれの地域との関係の中から生まれてきました。

私たちが大切にしているのは、音楽を届けて終わるのではなく、その土地の人々との対話を重ねながら、音楽のある時間をともにつくっていくこと。

一つひとつの出会いを積み重ね、その場所でき生まれない「音楽の輪」を広げています。

杉並区とともに

1994年、杉並区と日本フィルは友好提携を結びました。以来、コンサートや学校・施設への訪問、さまざまな教育活動などを通して、地域の中で音楽と出会う機会をつくり、音楽を身近に楽しめる環境づくりに取り組んでいます。

市民とつくる九州公演

1975年に始まった九州公演は、各地の市民による実行委員会とともに作り続けてきた公演です。演奏を届ける側と受け取る側という関係を超え、市民の方々が自主的に公演をつくる担い手となり、地域の方々との音楽の喜びを分かち合いながら、50年以上にわたって地域の音楽文化を育みつづけています。

次号からは、こうした地域での取り組みをとおして、その土地で生まれている音楽と人とのつながりをご紹介します。

音楽の現場から

「オーケストラの素晴らしいところは、結局は『みんなで助け合う』ってこと」

私が先輩楽員から教えられた言葉です。日本フィルは幸せなことに、オーケストラのほか、室内楽編成でも北海道から九州まで多くの地域から声をかけていただき、日本各地で演奏活動を行っています。「音楽の森」部署の仕事は、最少2人から20人程度までの室内楽のほか、楽器クリニック、ワークショップ、楽器体験等のイベントの制作などメニューも多く、会場もホールのほか、学校や公民館、児童施設や介護施設、病院ロビーなど多岐に渡ります。年齢や身体的な制約などから、自らの意思で社会や地域との関わりが難しい方々の元に、演奏家が出向きます。平場で触れ合うことで、地域の皆さんや地域の問題解決に取り組んでおられる方々と「助け合い」、生の音楽を通して「明日に生きる希望」を届けられたら、と願いつつ日々活動しています。

音楽の森 スタッフ 高橋 勇人



©山口敦



©山口敦

今後の日本フィル出演公演

2026年9月～11月

2026	公演／会場／日時	出演者／曲目	チケット／お問い合わせ
9月	第420回横浜定期演奏会 横浜みなとみらいホール 19[土]15:00	指揮: オッコ・カム ピアノ: 河村 尚子 ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第2番 ストラヴィンスキー: バレエ音楽《春の祭典》 ※当初の予定から内容が変更になりました。	日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪
	第83回杉並定期演奏会 杉並公会堂 20[日]15:00 完 売	お問い合わせ: 杉並公会堂	
	第157回 さいたま定期演奏会 ソニックシティ 26[土]14:00	指揮: 小林 研一郎[桂冠名誉指揮者] ヴァイオリン: 周防 亮介 ブルッフ: ヴァイオリン協奏曲第1番 ベルリオーズ: 幻想交響曲	日本フィルeチケット♪
	コバケン・ワールドVol.44 サントリーホール 27[日]14:00	日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪	
10月	第19回 UBEクラシックコンサート 渡辺翁記念会館 11[日]14:00	指揮: 山下 一史 ヴァイオリン: 服部 百音 ブラームス: ヴァイオリン協奏曲 ブラームス: 交響曲第1番	お問い合わせ: UBE株式会社 コーポレート コミュニケーション部 広報グループ
	第784回東京定期演奏会 サントリーホール 16[金]19:00 17[土]14:00	指揮: 山田 和樹 ヴァイオリン: ヴィルデ・フラング 間宮芳生: 二重奏協奏曲 * 日本フィル・シリーズ第16作 バルトーク: ヴァイオリン協奏曲第2番 チャイコフスキー: 交響曲第6番《悲愴》	日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪
	第414回名曲コンサート サントリーホール 24[土]14:00	指揮: カーチュン・ウオン[首席指揮者] ピアノ: 務川 慧悟 打楽器: ベンジャミン・ウー* 笛子: リー・チンツン* 揚琴: マ・ファン* 胡琴: タン・マンマン* 琵琶: ワン・スーウェン* チャイコフスキー: ピアノ協奏曲第1番 ムソルグスキー(カーチュン・ウオン編曲): 組曲《展覧会の絵》*	日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪

2026	公演／会場／日時	出演者／曲目	チケット／お問い合わせ
10月	小林研一郎 500回記念コンサート サントリーホール 26[月]19:00	指揮: 小林 研一郎[桂冠名誉指揮者] チェロ: 堤 剛* ナビゲーター: 朝岡 聡 リムスキー = コルサコフ: 交響組曲《シェエラザード》 チャイコフスキー: ロココ風の主題による変奏曲* ラヴェル: 《ボレロ》	日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪
	第421回横浜定期演奏会 横浜みなとみらいホール 10月31[土]15:00	指揮: 小林 研一郎[桂冠名誉指揮者] オーボエ: 杉原 由希子[首席奏者] クラリネット: 伊藤 寛隆[首席奏者] ホルン: 信末 碩才[首席奏者] ファゴット: 田吉 佑久子[首席奏者] モーツァルト: ディヴェルティメント 二長調 K.136 モーツァルト: 協奏交響曲 変ホ長調 K.297b ベートーヴェン: 交響曲第7番	日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪
11月	第264回芸劇シリーズ 東京芸術劇場 11月1[日]14:00	指揮: 広上 淳一 [フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)] ヴァイオリン: 扇谷 泰朋 [ソロ・コンサートマスター] ヴィオラ: 安達 真理[客演首席奏者] ナビゲーター: 高橋 克典 モーツァルト: ヴァイオリンとヴィオラのための 協奏交響曲 変ホ長調 K.364より 第3楽章 ロッシニ: 歌劇《ウィリアム・テル》序曲 ラヴェル: ボレロ 他	日本フィル・サービスセンター 日本フィルeチケット♪
	日本フィル& サントリーホール にじくら 〜トークと笑顔と、音楽と〜 第12回 サントリーホール 5[木]14:00	指揮: 広上 淳一 [フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)] チェロ: 宮田 大 ドヴォルジャーク: チェロ協奏曲 チャイコフスキー: 交響曲第5番	日本フィルeチケット♪
	第158回 さいたま定期演奏会 ソニックシティ 7[土]14:00	指揮: 広上 淳一 [フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)] チェロ: 宮田 大 ドヴォルジャーク: チェロ協奏曲 チャイコフスキー: 交響曲第5番	日本フィルeチケット♪

日本フィル・サービスセンター TEL: 03-5378-5911 [平日10時-17時]

日本フィルeチケット♪ <https://eticket.japanphil.or.jp>

公演の詳細は日本フィル・ホームページでご確認ください。 japanphil.or.jp





咲かせよう、
まだない
キレイを。

 utena



株式会社 ウ テ ナ

〒157-8567 東京都世田谷区南烏山1-10-22

お客様相談室 0120-305411 www.utena.co.jp

想像を、チカラに。



人が想像できることは、必ず人が実現できる。
鹿島の都市づくりは、100年先を見つめています。

100年をつくる会社
in 鹿島

解体ってただ壊せばいいって
わけじゃないんです。

だから解体は TANAKEN



TANAKEN株式会社

〒105-7309

東京都港区東新橋1-9-1 東京汐留ビルディング9階

TEL:03-6264-5520 FAX:03-6264-6405

コーポレートサイト



ブランドサイト



木を植え、
森を育てることも、
街づくりの
大切な一部なんですね。

三井不動産グループは北海道で
約5,000ヘクタールの森林を
保有、管理しています。
その大きさは東京ドーム約1,063個分。
この森が吸収するCO2は年間、
約21,315トンにもなるそうです。
人の手で1本1本苗木を
植え、下刈り、間伐などの
手入れをして健康な森に育てる。
そして、伐採適期を迎えた
木材や間伐材を、ららぽーとや
日本橋の街づくりに活用し、
「植えるー育てるー使う」のサイクルを
回し続けて、森を守っているんだって。
街づくりには森や緑を生かすことが
大切なんだな、と思いました。



三井のすずちゃん



◀ 三井のすずちゃんページはこちら

さあ、街から未来をかえよう

& 三井不動産グループ
MITSUI FUDOSAN GROUP

三井不動産グループ保有林 北海道 深川市湯内

ストーリーを変える、 ケミストリー。

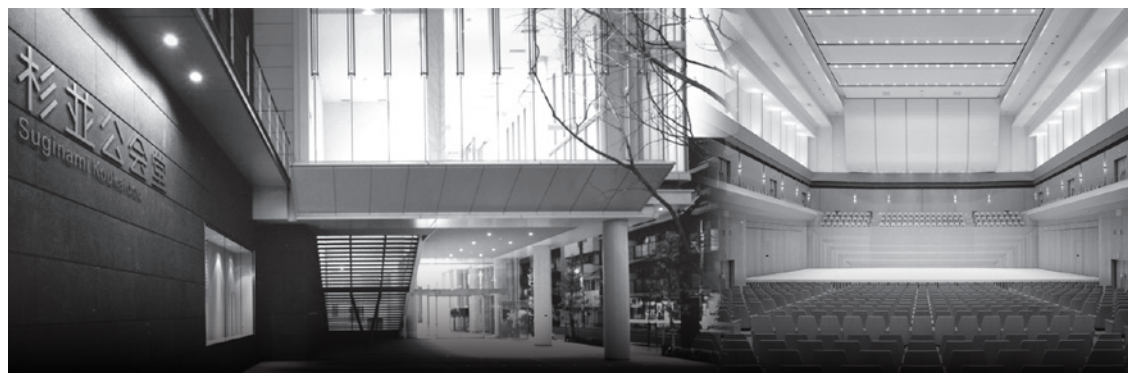
新しいものは、化学反応から生まれる。
化学の力で、もっといい未来へ。

UBE Transform
Tomorrow
Today



最高級のアコースティックを誇る

杉並公会堂
Suginami Koukaidou



日本フィルは杉並公会堂を活動拠点とし、
様々な活動を通じて音楽文化を発信しています。



日本フィル杉並公会堂
シリーズ公演より



春休みオーケストラ探検より
楽器体験



公開リハーサル

〒167-0043 東京都杉並区上荻1-23-15
Tel: 03-3220-0401
<http://www.suginamikoukaidou.com/>
※運営会社：(株)京王設備サービス

日本フィルを支えてくださる皆様に、心より御礼申し上げます。

日本フィルは多くの方々の支えを基に、年間約140回のオーケストラ公演を中心に多彩な活動を行っております。質の高い演奏を継続してお届けするため、また、音楽を通して「豊かな社会」の実現の一翼を担う活動をいっそう推進するために、幅広い皆様のお力によって経済的基盤を強化することを願っております。

演奏によって皆様とつながり、皆様とともに豊かな社会を実現する担い手となり、芸術性と社会性を両輪とし、「温かさ」「人に寄り添う」土壌を大切にしながら、あらゆる人々へ、世代へ、地域へ、音楽の持つ様々な力を社会に活かしていくことを目指しています。

私達は、日ごろの活動を通して、音楽とはネットワーク、コミュニケーションの力によって広がり、喜びがより深くなるのだと実感しております。日本フィルの楽団員一同は、音楽によって人と人とが繋がる喜びをもっとも理解する音楽集団として、人の心の温かさを、演奏に乗せて届けます。

日本フィルの活動を維持・発展させるためには、自助努力ももちろん大切です。引き続き経営面での努力を重ねます。

しかしいっぽう、文化の事業には継続性が大切です。こんにちの日本において、安定した活動を継続するためには皆様からいただくご寄付、ご支援が欠かせません。日本フィルは今後、様々なコミュニティの皆様とともに多彩な活動を行っていきたいと考えております。

社会のより一層の発展にとって、文化の成熟は欠くことができないものとなっております。日本フィルも、その一翼を担う存在として、皆様とともにその社会的役割をさらに充実させてまいりたいと考えております。どうぞ温かいご支援をお願い申し上げます。

日本フィルハーモニー交響楽団
理事長 石塚 邦雄

■お振込みでのご寄付

①お名前 ②ご住所 ③TEL ④お振込額
をメール donation@japanphil.or.jp まで
お知らせください。

【お振込先口座】

三菱UFJ銀行 高円寺支店(支店コード:155)
普通預金 0242402

公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

※振込手数料はご負担くださいますようお願い申し上げます。

その他右ページもご覧ください。

■オンライン寄付

日本フィルの公式ホームページから
クレジットカードによりご寄付いただけます。
右の二次元コードから
ご寄付のサイトを
ご覧いただけます。

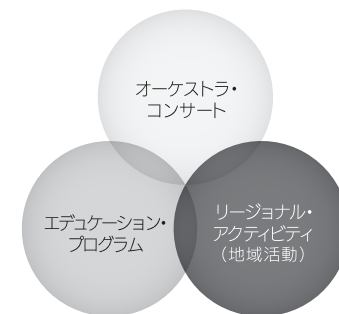


ご寄付をいただきました方には、
後日寄付金受領書等をお送りいたします。

感動の共有 日本フィルハーモニー交響楽団

文化の発信

日本フィルは、
質の高い音楽をお届けする《オーケストラ・コンサート》
音楽との出会いを広げる《エデュケーション・プログラム》
そして音楽の力で様々なコミュニティを活性化させる
《リージョナル・アクティビティ》という
三つの柱で活動を行い、
音楽を通して文化を発信しています。



今月から下記の方々よりご支援をいただくことになりました。(敬称略)

特 別 会 員

株式会社Bridgepoint 代表取締役社長 佐藤 司
株式会社シティライフプロパティーズ 代表取締役会長 石橋 秀雄

パトローネージュ

鈴木 康之 福島県 / 田中 一嘉 東京都 / 中嶋 尚信 千葉県 / 山中 吹雪 埼玉県 / 匿名 1名

日本フィルへのご寄付

税額控除または所得控除の対象となります。宛先は左のページをご覧ください。

パトローネージュ[個人寄付会員]

プログラム誌へのご芳名掲載などの特典があります。税額控除または所得控除の対象となります。
年会費:3万円/5万円/12万円/20万円/50万円/100万円

日本フィル・サポーターズクラブ

音楽に関心を持つ皆様に日本フィルの活動をご支援いただくシステムです。ご招待券2枚プレゼント、
主催公演チケット優先受付・優待(1割引)など様々な特典があります。
年会費:1万円

特別会員[法人寄付]

定期演奏会のご案内、プログラム誌へのご芳名の掲載などの特典があります。
寄付金額を損金に算入することができます。

遺贈

遺言により財産をご寄付頂く方法です。税制上の優遇措置の対象となります。
お申込みの方法など、提携銀行のご紹介など、詳しくは事務所までご相談ください。

お問い合わせ:日本フィル事務所 TEL03-5378-6311(10-18時、土日祝日休)

アース製薬株式会社
代表取締役社長 CEO 川端 克宜

アイング株式会社 代表取締役会長 飯嶋 庸夫

赤坂維新號 代表取締役会長 鄭 東静

あすか製薬株式会社
代表取締役社長 山口 惣大

株式会社アトックス
代表取締役社長 矢口 敏和

株式会社アドバンス都市開発
代表取締役 古澤 孝

株式会社アダービジネスコンサルタント
代表取締役社長 池田 昭司

イーソリューションズ株式会社
代表取締役社長 佐々木経世

株式会社泉商会 代表取締役 八方 健介

株式会社泉放送制作
代表取締役社長 日下部恵一

磯野不動産株式会社
代表取締役社長 磯野 計一

稲畑産業株式会社 代表取締役社長 稲畑勝太郎

株式会社インフォーマート
代表取締役社長 木村 慎

ウエルシア薬局株式会社
代表取締役社長 田中 純一

株式会社内田洋行 代表取締役社長 大久保 昇

宇部エクシモ株式会社
代表取締役社長 福永 謙二

株式会社AIT 代表取締役社長 大熊 克美

ABCシステム株式会社
代表取締役社長 児玉 光宏

株式会社エイブル&パートナーズ
代表取締役会長兼社長 佐藤 茂

株式会社エヌエフホールディングス
代表取締役会長 高橋 常夫

NGB株式会社 代表取締役社長 宮崎 潔

株式会社エルイーテック
代表取締役社長 坂田 洋一

エレコム株式会社 代表取締役会長 葉田 順治

株式会社大場造園 代表取締役社長 大場 二郎

岡三証券株式会社

荻窪タウンセブン株式会社

小川香料株式会社 代表取締役社長 小川 裕

株式会社ONODERA GROUP
代表取締役会長兼社長 小野寺裕司

公益財団法人オリックス宮内財団
代表理事 宮内 義彦

鹿島建設株式会社
代表取締役会長兼社長 押味 至一

鹿島建物総合管理株式会社
代表取締役社長 小林 宏彰

鹿島道路株式会社 代表取締役社長 小土井満治

株式会社カナック企画 代表取締役 金子高一郎

株式会社カナデン 代表取締役社長 守屋 太

株式会社 歌舞伎座 代表取締役社長 安孫子 正

株式会社ガモウ 代表取締役 蒲生 茂

社会医療法人河北医療財団 理事長 河北 博文

川北電気工業株式会社 取締役社長 大津 正己

北野建設株式会社
代表取締役会長兼社長 北野 貴裕

キッコーマン株式会社
代表取締役社長CEO 中野祥三郎

木下哲税理士事務所 代表社員 木下 哲

キャノン株式会社
代表取締役会長 兼 社長 CEO 御手洗富士夫

キユーピー株式会社
代表取締役 社長執行役員 高宮 満

共和建物管理株式会社 代表取締役 平 浩

キリンホールディングス株式会社
代表取締役社長COO 南方 健志

株式会社きんでん 代表取締役社長 吉増 憲二

株式会社九曜社 代表取締役社長 望月 耕次

グローブシップ株式会社
代表取締役社長 矢口 敏和

京王重機整備株式会社
代表取締役社長 梁瀬 哲夫

株式会社京王設備サービス
取締役社長 山木 正一

京王電鉄株式会社
代表取締役社長社長執行役員 都村 智史

株式会社小泉 代表取締役社長 長坂 剛

株式会社興建社 代表取締役 水島 隆明

コーザイ株式会社 代表取締役 貝沼 信和

株式会社講談社 代表取締役社長 野間 省伸

株式会社コバヤシ 代表取締役 小林 達夫

コンパッソ税理士法人 代表社員 内川 清雄

佐藤製薬株式会社 代表取締役社長 佐藤 誠一

三機工業株式会社 特別顧問 梶浦 卓一

山九株式会社 代表取締役社長 中村 公大

サントリーホールディングス株式会社
代表取締役社長 鳥井 信宏

三洋貿易株式会社 代表取締役社長 新谷 正伸

株式会社慈恵実業 代表取締役社長 石塚 雄三

株式会社シティライフプロパティーズ
代表取締役会長 石橋 秀雄

株式会社じほう 代表取締役会長 武田正一郎

清水建設株式会社 代表取締役社長 新村 達也

株式会社集英社 代表取締役社長 林 秀明

株式会社シエルター 代表取締役会長 木村 一義

ショーボンドホールディングス株式会社
代表取締役社長 岸本 達也

株式会社ジャックス 代表取締役社長 村上 亮

株式会社ジンテック 代表取締役社長 柳 秀樹

杉山商事株式会社 代表取締役会長 杉山 健

住友ベークライト株式会社
代表取締役社長 鍛冶屋伸一

株式会社スプリックス
代表取締役社長 常石 博之

全国保証株式会社 代表取締役社長 青木 裕一

第一倉庫株式会社 会長 小泉 駿一

株式会社泰秀 代表取締役社長 野口 通子

大正製薬株式会社 代表取締役社長 上原 茂

大日本除虫菊株式会社
代表取締役社長 上山 史朗

大和製罐株式会社 代表取締役社長 山口 裕久

高砂熱学工業株式会社
代表取締役社長COO 社長執行役員 小島 和人

TANAKEN株式会社
代表取締役社長 中尾 安志

千歳コーポレーション株式会社
取締役社長 眞田 茂春

千代田化工建設株式会社
代表取締役社長 太田 光治

株式会社千代田テクノル
代表取締役会長 細田 敏和

株式会社中央デパート
代表取締役社長 木村 和貴

塚本總業株式会社 代表取締役社長 塚本 素清

ディアンドデパートメント株式会社
代表 ナガオカケンメイ

学校法人帝京大学 理事長 冲永 佳史

株式会社T&Aマネジメント
代表取締役 長田忠千代

THK株式会社 代表取締役会長 寺町 彰博

株式会社電通 代表取締役 社長執行役員 松本 千里

東亜建設工業株式会社 代表取締役社長 早川 毅

株式会社東急コミュニティー 取締役社長 速川 智行

東京海上日動火災保険株式会社 取締役社長 城田 宏明

株式会社東京交通会館 代表取締役社長 細包 憲志

東京美装興業株式会社 代表取締役社長 八木 秀記

東洋熟工業株式会社 代表取締役社長 谷口 昌伸

戸田建設株式会社 代表取締役会長 今井 雅則

学校法人東京音楽大学 理事長 丸山恵一郎

株式会社永田音響設計 代表取締役社長 小口 恵司

株式会社ナミキ 代表取締役会長 並木 洋一

日鉄興和不動産株式会社 代表取締役社長 三輪 正浩

株式会社ニフコ 代表取締役社長 柴尾 雅春

日本精工株式会社 取締役 代表執行役社長・CEO 市井 明俊

日本製鉄株式会社 代表取締役社長 今井 正

日本電子株式会社 代表取締役社長 兼 CEO 大井 泉

日本パーカライジング株式会社

株式会社ネイチャーズウェイ 代表取締役社長 萩原 吉晃

根本特殊化学株式会社 代表取締役社長 根本美恵子

ハウス食品グループ本社株式会社 代表取締役社長 浦上 博史

株式会社博報堂 代表取締役社長 名倉 健司

株式会社パッファロー 代表取締役社長 牧 寛之

ハナマルキ株式会社 代表取締役社長 花岡周一郎

阪和興業株式会社 代表取締役社長 中川 洋一

税理士法人ヒイラギ 代表社員税理士 黒田 榮治

東日本住宅株式会社 代表取締役 桃野 直樹

株式会社美禅 代表取締役 堀 哲昭

非破壊検査株式会社 代表取締役社長 山口多賀幸

ひびき・パース・アドバイザーズ 代表取締役社長 清水 雄也

株式会社ファミーコ 代表取締役 新庄真帆子

富国生命保険相互会社 代表取締役社長 渡部 毅彦

富士テレコム株式会社 代表取締役社長 土井 寛

一般財団法人藤本育英財団 理事長 藤本由紀子

古河産業株式会社 代表取締役社長 伊藤 啓真

株式会社フルヤ金属 代表取締役 古屋 堯民

株式会社Bridgepoint 代表取締役社長 佐藤 司

合同会社ベルファーマシー 代表社員 前島 景子

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

ホッカンホールディングス株式会社 代表取締役社長 池田 孝資

株式会社ガニーキャニオン 代表取締役社長 大熊 一成

マネックスグループ株式会社 代表執行役社長CEO 清明 祐子

株式会社丸井グループ 代表取締役社長 青井 浩

株式会社丸の内よろず 取締役社長 加藤 昌彦

丸文株式会社 代表取締役社長兼最高経営責任者 堀越 裕史

丸美屋食品工業株式会社 代表取締役社長 阿部豊太郎

株式会社三井住友銀行 頭取CEO 福留 朗裕

三井住友信託銀行株式会社 名誉顧問 北村邦太郎

三井倉庫ホールディングス株式会社 代表取締役社長 古賀 博文

三菱HCキャピタル株式会社 代表取締役 社長執行役員 久井 大樹

三菱オートリース株式会社 代表取締役社長 高井 直哉

三菱ガス化学株式会社 代表取締役社長 伊佐早禎則

三菱総研DCS株式会社 代表取締役社長 亀田 浩樹

三菱地所株式会社 執行役社長 中島 篤

三菱重工業株式会社 取締役会長 泉澤 清次

三菱倉庫株式会社 代表取締役 社長 斉藤 秀親

株式会社三菱UFJ銀行 頭取 大澤 正和

三菱UFJ証券ホールディングス株式会社 取締役社長兼CEO 関 浩之

武蔵商事株式会社 代表取締役 宇田川紀通

明治安田生命保険相互会社 取締役代表執行役社長 永島 英器

メッドサポートシステムズ株式会社 代表取締役 谷川ひとみ

株式会社メディアグラフィックス 代表取締役社長 我妻まどか

森社会保険労務士事務所 所長 森 康之

株式会社ヤクルト本社 終身名誉会長 堀 澄也

山崎製パン株式会社

UBE株式会社 取締役会長 泉原 雅人

ユウキフーズシステム株式会社 代表取締役社長 田中 秀和

横河電機株式会社

米持建設株式会社 代表取締役 米持 大介

リガク・ホールディングス株式会社 代表取締役社長 川上 潤

リョーサン菱洋株式会社 代表取締役社長執行役員 稲葉 和彦

株式会社リンレイ 代表取締役社長 鈴木 信也

ローム株式会社 代表取締役社長 社長執行役員 東 克己

匿名5名

青山やすし	東京都	岩田 達明	神奈川県	金子 修	埼玉県	島田 晴雄	東京都	蔦井 厚伸	東京都	箱崎 一彦	千葉県	村上 洋美	東京都	若林 昭子	東京都
秋元 和美	東京都	上田 泰邦	東京都	金子 清	千葉県	清水 幸雄	東京都	津田 義久	東京都	蓮見 正純	東京都	村上 泰郎	東京都	渡辺 和子	東京都
明田 重樹	東京都	上野悦子・陽子	東京都	金子 肇	千葉県	下河辺美知子	神奈川県	常石 博之	東京都	原 俊	千葉県	村上 泰大	神奈川県	渡邊規久雄	東京都
浅野 純次	埼玉県	宇賀神裕子	静岡県	香山 和子	神奈川県	下田 英一	東京都	積田 孝一	東京都	原 幸男	静岡県	持田 泰	東京都	渡邊 裕志	山口県
朝吹 英和	東京都	臼井 潤	東京都	川合 孝一	千葉県	生島 貴司	千葉県	一般社団法人		針谷 博史	東京都	元永 徹司	神奈川県	Maru	
厚田 理郎	東京都	内村 恒彦	神奈川県	菊池 和美	東京都	晋友会合唱団	東京都	東京フロイデ合唱団		日高 好男	東京都	森 稔樹	神奈川県	M.K.	
阿部 俊彰	神奈川県	江口 麗子	東京都	喜多崋久江	東京都	菅 千太郎	東京都		東京都	平井 邦子	神奈川県	森川 智之	神奈川県	匿名62名	
新井 康允	神奈川県	大久保 昇	神奈川県	北村 裕	神奈川県	杉本 功	東京都	東瀬 朗	新潟県	平田 邦夫	神奈川県	森田 大輔	神奈川県		
荒木 秀隆	東京都	大竹 広明	神奈川県	木村 恵司	神奈川県	杉山 秀子	東京都	時枝 直満	東京都	広瀬 晴子	神奈川県	森田ハルヨ	東京都		
荒蒔康一郎	東京都	太田 達男	千葉県	久野 哲男	千葉県	杉山 浩明	東京都	徳田 陽一	東京都	廣田 直人	東京都	矢口 敏和	千葉県		
有江 純子	神奈川県	大塚 宣夫	東京都	倉谷 宏樹	東京都	鈴木 康之	福島県	外山 雄三	東京都	深沢 茂実	神奈川県	矢倉 俊紀	東京都		
安西祐一郎	東京都	大坪 昌広	東京都	栗原真知子	埼玉県	鈴木 祐二	東京都	中尾 誠利	神奈川県	深見 敏正	東京都	山上 典彦	東京都		
飯田 桂子	東京都	大森 京太	東京都	黒田 真二	神奈川県	住野 公一	東京都	ナガオカケンメイ	東京都	福井 英次	東京都	山岸 陽子	東京都		
飯田 百栄	東京都	岡田 尚子	埼玉県	畔柳 信雄	東京都	関 兼英	東京都	中島 奈穂	東京都	福田 昭夫	東京都	山口 幸子	東京都		
家近 茂	東京都	岡田 雅史	神奈川県	甲賀 一宏	埼玉県	妹尾 絲子	東京都	中嵐 尚信	千葉県	藤野 盾臣	東京都	山口 仁栄	東京都		
家近 信子	東京都	荻窪祝祭管弦楽団		胡口 靖夫	東京都	仙石 通泰	東京都	中島美知子	東京都	藤原 真也	東京都	山口 岳彦	栃木県		
五十嵐重雄	東京都		東京都	小林 和夫	東京都	宗 神子	大分県	長瀬 雅則	東京都	星 桂太朗	東京都	山口 達之	長崎県		
池浦 慧	東京都	尾澤 弘久	東京都	小林こずえ	東京都	染野 郁郎	東京都	中園 和博	東京都	細谷 義徳	千葉県	山口みどり	東京都		
池田 博	東京都	尾上 洋子	東京都	小林 政雄	長野県	空田 幸徳	東京都	中西 祥子	東京都	牧野 澄夫	東京都	山越 章弘	長野県		
池野 隆光	東京都	小野寺けい子	岩手県	小林 裕美	東京都	高井 延幸	神奈川県	永野 琢夫	東京都	増井 俊之	神奈川県	山田 敏之	神奈川県		
池谷 光司	東京都	小野寺健一	岩手県	五味 康昌	神奈川県	高木 宏忠	東京都	中村 公一	東京都	増田 文彦	神奈川県	山田 宏己	東京都		
石澤 卓志	千葉県	小幡 尚孝	東京都	齋藤 武則	東京都	高須 幸雄	東京都	中山 彩	東京都	町田 公志	東京都	山中 吹雪	埼玉県		
石塚 邦雄	東京都	小原 道生	東京都	坂井 康柄	神奈川県	高田 信子	東京都	那須 雄治	東京都	松尾	東京都	山本 高稔	東京都		
石津 寿恵	東京都	折田 昌子	東京都	定形 哲	神奈川県	竹下 淑子	神奈川県	棗 年紀・綾	東京都	松田 譲	東京都	油井 直次	東京都		
伊藤 貴博	東京都	風間 沙織	神奈川県	佐藤 武男	東京都	竹中富知男	東京都	新倉 啓介	東京都	松村 美希	東京都	横川 直	東京都		
伊藤 昌司	東京都	賀澤 裕三	福島県	佐藤 寛之	東京都	田中 一嘉	東京都	西澤 豊	東京都	三木恵美子	神奈川県	吉江 健志	千葉県		
伊藤 好彦	東京都	片山 英二	東京都	佐藤 正昭	東京都	田中稀一郎	東京都	西谷 公男	東京都	三木 繁光	東京都	吉川 美保	東京都		
井上 直人	東京都	片山 茂	千葉県	佐藤 正知	東京都	田仲 博幸	東京都	西村 醇子	神奈川県	峯島 茂之	東京都	吉田 貴美	神奈川県		
井上 浩良	東京都	桂 史子	東京都	座間 淑美	神奈川県	田辺三基男	東京都	二村 英之	東京都	宮川 和哉	神奈川県	吉田 公彦	神奈川県		
井上 正敏	千葉県	加藤 壹康	静岡県	澤井 敏雄	東京都	田村 浩章	東京都	布村 清美	東京都	宮地 直紀	東京都	吉田 知世	東京都		
岩沙 弘道	東京都	加藤 丈夫	東京都	島田 和子	東京都	塚本 和久	東京都	沼口 順子	東京都	宮本 裕二	兵庫県	吉村 真幸	埼玉県		
岩瀬 順子	神奈川県	加藤 頼宣	東京都	島田 精一	東京都	辻 雅夫	東京都	根本 直之	千葉県	村上 純子	埼玉県	吉村 匡則	東京都		

日本フィルハーモニー交響楽団 [秋冬]
70周年記念特別東京定期演奏会

会場/サントリーホール(10月~12月)
東京芸術劇場(1月、3月)
金曜日/19:00開演
土曜日/14:00開演

2026 10 October	【第784回】サントリーホール 16日(金)、17日(土) 【1回券】S席 ¥10,000 A席 ¥8,500 B席 ¥7,500 C席 完売 P席 ¥5,000 Ys席 ¥2,500	指揮:山田 和樹 ヴァイオリン:ヴィルデ・フラング 間宮芳生:二重奏協奏曲 *日本フィル・シリーズ第16作 バルトーク:ヴァイオリン協奏曲第2番 チャイコフスキー:交響曲第6番《悲愴》
2026 11 November	【第785回】サントリーホール 13日(金)、14日(土) 【1回券】S席 ¥10,000 A席 ¥8,500 B席 ¥7,500 C席 完売 P席 ¥5,000 Ys席 ¥2,500	指揮:小林 研一郎(桂冠名譽指揮者) スメタナ:連作交響詩《我が祖国》全曲
2026 12 December	【第786回】サントリーホール 4日(金)、5日(土) 【1回券】S席 ¥9,500 A席 ¥8,000 B席 ¥7,000 C席 完売 P席 ¥5,000 Ys席 ¥2,500	指揮:沖澤 のどか ピアノ:阪田 知樹 レーガー:ピアノ協奏曲 ブラームス:交響曲第2番
2027 1 January	【第787回】東京芸術劇場 29日(金)、30日(土) 【1回券】S席 ¥10,000 A席 ¥8,500 B席 ¥7,500 C席 完売 P席 ¥5,000 Ys席 ¥2,500	指揮:カーチン・ウォン[首席指揮者] ブルクナー:交響曲第8番(ノヴァーク版)
2027 3 March	【第788回】東京芸術劇場 12日(金)、13日(土) 【1回券】S席 ¥10,000 A席 ¥8,500 B席 ¥7,500 C席 完売 P席 ¥5,000 Ys席 ¥2,500	指揮:ピエタリ・インキネン ピアノ:アレクサンドル・メルニコフ ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第5番《皇帝》 R.シュトラウス:交響詩《英雄の生涯》

半期秋冬定期会員券(2026年10月~2027年3月/全5回) 好評販売中
S席 ¥35,000 A席 ¥30,000 B席 ¥26,000 C席 ¥21,000 P席 ¥17,000 Ys席 ¥9,000
Ys席:25歳以下の方が対象で、S席以外からお選びいただけます。

秋冬【1回券】
好評販売中

日本フィルハーモニー交響楽団 [秋冬]
70周年記念特別横浜定期演奏会

会場/横浜みなとみらいホール
土・日曜日/15:00開演
(11月のみ日曜開催)

2026 10 October	【第421回】 31日(土) 【1回券】S席 ¥9,500 A席 ¥8,000 B席 ¥7,000 C席 ¥6,000 P席 完売 Ys席 ¥2,500	指揮:小林 研一郎(桂冠名譽指揮者) オーボエ:杉原 由希子(首席奏者) クラリネット:伊藤 寛隆(首席奏者) ホルン:信木 慎才(首席奏者) ファゴット:田吉 佑久子(首席奏者) モーツァルト:ディヴェルティメント 二長調 K.136 モーツァルト:協奏交響曲 変ホ長調(オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットのための)K.297b ベートーヴェン:交響曲第7番
2026 11 November	【第422回】 22日(日) 【1回券】S席 ¥9,500 A席 ¥8,000 B席 ¥7,000 C席 ¥6,000 P席 完売 Ys席 ¥2,500	指揮:カーチン・ウォン[首席指揮者] ピアノ:サー・スティーヴン・ハフ ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第5番《皇帝》 サン＝サーンス:交響曲第3番《オルガン付き》
2026 12 December	【第423回】 19日(土) 【1回券】S席 ¥10,000 A席 ¥9,000 B席 ¥7,500 C席 ¥6,000 P席 合唱団 Ys席 ¥4,000	指揮:阪 哲朗 ソプラノ:隠岐 彩夏 カウンターテナー:藤木 大地 テノール:小堀 勇介 バリトン:池内 響 合唱:東京音楽大学合唱団 オルガン:勝山 雅代 JS/バトリック・カタとフーガ 二短調 BWV565 他(オルガン独奏3曲) ベートーヴェン:交響曲第9番《合唱》
2027 1 January	【第424回】 9日(土) 【1回券】S席 ¥9,500 A席 ¥8,000 B席 ¥7,000 C席 ¥6,000 P席 完売 Ys席 ¥2,500	指揮:カーチン・ウォン[首席指揮者] トランペット:児玉 隼人 ハチャトゥリアン:組曲《仮面舞踏会》 ハイドン:トランペット協奏曲 変ホ長調 Hob.VIc:1 J.シュトラウスII世:喜歌劇《こもり》序曲 J.シュトラウスII世:ワルツ《美しく青きドナウ》 ラヴェル:《タフニスとクロエ》第2組曲
2027 3 March	【第425回】 27日(土) 【1回券】S席 ¥9,500 A席 ¥8,000 B席 ¥7,000 C席 ¥6,000 P席 完売 Ys席 ¥2,500	指揮:カーチン・ウォン[首席指揮者] ヴァイオリン:田野倉 雅秋[ソロ・コンサートマスター] ポロディン:歌劇《イーゴリ公》序曲 ハチャトゥリアン:ヴァイオリン協奏曲 二短調 ムソルグスキー(リムスキー=ニコラエフ編曲):交響詩《はげ山の一夜》 レスピーギ:交響詩《ローマの松》

半期秋冬定期会員券(2026年10月~2027年3月/全5回) 好評販売中
S席 ¥34,000 A席 ¥29,000 B席 ¥25,000 C席 ¥21,000 P席 ¥14,000(12月を除く全4回) Ys席 ¥9,000

秋冬【1回券】
好評販売中

【お申込み】日本フィル・サービスセンター TEL:03-5378-5911(平日10時~17時)
eチケット♪[席を選んで申し込みできます] <https://eticket.japanphil.or.jp/>

Member's TVU CHANNEL CLASSICAL MUSIC

クラシカルミュージック

<https://members.tvuch.com>



メンバーズ TVU チャンネルは、クラシック音楽のコンサートの臨場感をいつでもどこでもお楽しみいただけるインターネット・サイトです。コンサートホールからのライブ配信、さらにコンサートが終わったあともアーカイブ映像としていつでも視聴可能です。日本フィルの配信は1,000円で視聴可能期間は何度でもご視聴いただけます(特に記載のないものは販売期間は6ヶ月、購入後3ヶ月視聴可能です)。

まずはID登録! メールアドレスとパスワードのみで簡単!

第415回 横浜定期演奏会 2026年3月21日(土)

指揮:小林 研一郎 クラリネット:伊藤 寛隆
モーツァルト:クラリネット協奏曲 ベートーヴェン:交響曲第3番《英雄》

9/21
まで販売

第779回 東京定期演奏会 2026年4月10日(金)

指揮:カーチン・ウォン ソプラノ:森谷 真理 メゾソプラノ:林 美智子 テノール:村上 公太
バリトン:大西 宇宙 合唱:晋友会合唱団
ベートーヴェン(マラー/修正版):交響曲第9番《合唱》

第413回 名曲コンサート 2026年5月17日(日)

指揮:藤岡 幸夫
シベリウス:交響詩《フィンランディア》 チャイコフスキー:交響曲第5番
ベルリオーズ:幻想交響曲

第782回 東京定期演奏会 2026年7月10日(土)

指揮:フランソワ・ルルー
プロコフィエフ:交響曲第5番

第783回 東京定期演奏会 2026年9月11日(金)

指揮:カーチン・ウォン
ショスタコーヴィチ:交響曲第7番《レニングラード》

■ 新入団のお知らせ

2026年9月1日付でクラリネット・セクションに須東裕基が入団いたしました。今後の活躍にご期待ください。

■ もうすぐ発売

第267回芸劇シリーズ ニューイヤーコンサート	発売日:9月16日(水)
2027年1月10日(日) 14:00	東京芸術劇場
指揮:カーチュン・ウォン[首席指揮者] トランペット:児玉 隼人 ハチャトゥリアン:組曲《仮面舞踏会》 ハイデン:トランペット協奏曲 変ホ長調 Hob.VIle:1 J.シュトラウスII世:喜歌劇《こうもり》序曲 J.シュトラウスII世:ワルツ《美しく青きドナウ》op.314 ラヴェル:《ダフニスとクロエ》第2組曲	

S席 ¥8,500 A席 ¥7,000 B席 ¥6,000 C席 ¥5,000 D席 ¥3,500
Gs席(70歳以上) ¥5,000 Ys席(25歳以下) ¥2,500

日本フィル室内楽シリーズ 東京室内楽定期 Vol.2	発売日:9月18日(金)
2026年11月29日(日) 14:00	ヤマハホール
クラリネット:照沼 夢輝 ヴァイオリン:扇谷 泰朋[ソロ・コンサートマスター]、 太田 麻衣、田村 昭博、大貫 聖子、末廣 紗弓、町田 匡 ヴィオラ:江藤 史織、児仁井 かおり、中川 裕美子 チェロ:門脇 大樹[ソロ・チェロ]、石崎 美雨 コントラバス:宮坂 典幸 フィンジ:5つのパガテル op.23(クラリネット五重奏版) フランセ:クラリネット五重奏曲 エルガー:弦楽セレナード ホ短調 op.20 ブルッフ:弦楽八重奏曲 変ロ長調	
一般 ¥4,500 日本フィル各種有料会員 ¥4,000	

定期会員券ご寄付のお願い

お客様のご都合により、定期演奏会にご来場いただけなくなった時は、是非日本フィルにチケットをご寄付ください。有効に活用させていただきます。

7月の東京・横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。心より御礼申し上げます。
(50音順・敬称略) 今宮 瑞雄、畑 衆、匿名4名

ご寄付の方法

ご寄付いただける会員券の公演日・座席数・座席番号を日本フィル・サービスセンターにお電話かFAX、メールにてご連絡の上、会員券をご郵送ください。主催会場でも受け付けます。

※公演1週間前のご寄付に関しては、会員券のご郵送は不要です。 ※会員券のご郵送代はお客様にてご負担いただきます様ご協力をお願い致します。 ※ご寄付いただいた定期会員のお客様には、ご寄付いただきました公演月のプログラム冊子を後日ご郵送致します。また、翌月または翌々月のプログラムにご芳名を掲載させていただきますので、掲載をご希望されないお客様はご連絡をお願い致します。

日本フィル・サービスセンター 〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1
TEL:03-5378-5911(平日10時~17時) FAX:03-5378-6161(24時間) E-mail:order-ticket@japanphil.or.jp



©飯田 耕治

日本フィルハーモニー交響楽団

1956年6月創立。楽団創設の中心となった渡邊暁雄が初代常任指揮者を務める。

創立当初より幅広いレパートリーと斬新な演奏スタイルで、ドイツ・オーストリア系を中心としていた当時の楽壇に新風を吹き込み、大きなセンセーションを巻き起こした。創立期から始められた「日本フィル・シリーズ」は、日本の音楽史上でも例のない委嘱制度として三善晃、武満徹、細川俊夫ら多彩な邦人作曲家へ新作委嘱を行ってきた。シリーズは42作にまで至り、その中には今日「古典」として定着した作品も少なくない。

2023年9月よりカーチュン・ウォンが首席指揮者を務め、その独創性と真摯さに裏付けられた音楽作りが注目されている。近年の高い演奏力と積極的なプログラミングは「21世紀の日本のオーケストラが目指すべき方向を明確に示す」と評価され、2023年度ミュージック・ペンクラブ音楽賞を受賞した。さらに桂冠名誉指揮者小林研一郎、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ、フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)広上淳一という指揮者陣を中心に東京・横浜・杉並・さいたま・相模原での定期演奏会をはじめ年間約150回のオーケストラ公演を行う。

1975年から続く夏休みコンサートは親子三代で楽しめるファミリーコンサートの草分け的存在。学校や介護施設等への訪問コンサートは年間約200回に及び。音楽との出会いの場を広げる創造・体験型ワークショップは、日本のオーケストラにおける先駆的な活動として注目されている。

また、全国各地で地域と協働しながら音楽を通したコミュニティの活性化と、地域文化の発展を目指す長期的な活動も積極的に行っており、特に九州全県で行う九州公演は1975年よりその歴史を刻む。また、1994年に杉並区と友好提携を結び、杉並公会堂を本拠地とし、「杉並定期演奏会」や「60歳からの楽器教室」など地域に密着した活動を展開している。

さらに東日本大震災の直後、2011年4月より「被災地に音楽を」を開始。その数は360回を超える。これらが「若い世代への未来への希望を育んでいる」ことに対し、2022年に第16回後藤新平賞が授与された。

芸術性と社会性を両輪とし、「温かさ」「人に寄り添う」土壌を大切にしながら、あらゆる人々へ、世代へ、地域へ、世界へ音楽の持つ様々な力を社会に活かしていくことを目指している。

楽団紹介 Orchestra Members

2026年9月1日現在

指揮者

Conductor

創立指揮者

桂冠名誉指揮者

名誉指揮者

名誉指揮者

客員首席指揮者

首席指揮者

桂冠指揮者 兼 芸術顧問

フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)

渡邊 暁雄 WATANABE Akeo

小林 研一郎 KOBAYASHI Ken-ichiro

ルカーチ・エルヴィン Lukács ERVIN

ジェームズ・ロツホラン James LOUGHRAN

ネーメ・ヤルヴィ Neeme JÄRVI

カーチュン・ウオン Kahchun WONG

アレクサンドル・ラザレフ Alexander LAZAREV

広上 淳一 HIROKAMI Junichi

コンサートマスター

Concertmaster



ソロ・コンサートマスター
扇谷 泰朋
OGITANI Yasutomo



ソロ・コンサートマスター
木野 雅之
KINO Masayuki



ソロ・コンサートマスター
田野倉 雅秋
TANOKURA Masaaki



アシスタント・コンサートマスター
千葉 清加
CHIBA Sayaka

第1ヴァイオリン

1st Violin



伊藤 太郎
ITO Taro



太田 麻衣
OTA Mai



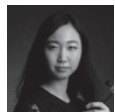
九鬼 明子
KUKI Akiko



齋藤 政和
SAITO Masakazu



榊 渚
SAKAKI Nagisa



竹歳 夏鈴
TAKETOSHI Karin



谷崎 大起
TANIZAKI Hiroki



田村 昭博
TAMURA Akihiro



中谷 郁子
NAKAYA Ikuko



西村 優子
NISHIMURA Yuko



平井 幸子
HIRAI Sachiko

第2ヴァイオリン

2nd Violin



遠藤 直子
ENDO Naoko



大貫 聖子
ONUKI Seiko



岡田 紗弓
OKADA Sayumi



神尾 あずさ
KAMIO Azusa



佐藤 駿一郎
SATO Shun-ichiro



末廣 紗弓
SUEHIRO Sayumi



豊田 早織
TOYODA Saori



町田 匡
MACHIDA Tadashi



松川 葉月
MATSUKAWA Hazuki



山田 千秋
YAMADA Chitose

ヴィオラ

Viola



客演首席奏者
安達 真理
ADACHI Mari



江藤 史織
ETO Shiori



小俣 由佳
OBATA Yuka



小中澤 基道
KONAKAZAWA Motomichi



児仁井 かおり
KONII Kaori



高橋 智史
TAKAHASHI Satoshi



中川 裕美子
NAKAGAWA Yumiko



中溝 とも子
NAKAMIZO Tomoko



松澤 稚奈
MATSUZAWA Wakana

ソロ・チェロ

Solo Violoncello



門脇 大樹
KADOWAKI Hiroki



菊地 知也
KIKUCHI Tomoya

チェロ

Violoncello



石崎 美雨
ISHIZAKI Miu



伊堂寺 聡
IDOUJI Satoshi



江原 望
EHARA Nozomu



大澤 哲弥
OSAWA Tetsuya



久保 公人
KUBO Masato



篠原 和仁
SHINOHARA Kazuhito



山田 智樹
YAMADA Tomoki

コントラバス

Contrabass



鈴村 優介
SUZUMURA Yusuke



成澤 美紀
NARUSAWA Miki



宮坂 典幸
MIYASAKA Noriyuki



森田 麻友美
MORITA Mayumi



山口 雅之
YAMAGUCHI Masayuki

フルート

Flute



首席奏者
真鍋 恵子
MANABE Keiko



斎藤光晴
SAITO Mitsuharu



難波 薫
NAMBA Kaoru

写真 ©井村重人

オーボエ

Oboe



首席奏者
杉原 由希子
SUGIHARA Yukiko



副首席奏者
松岡 裕雅
MATSUOKA Hiromasa



佐竹 真登
SATAKE Masato

クラリネット

Clarinet



首席奏者
伊藤 寛隆 (楽団長)
ITO Hiroataka



副首席奏者
楠木 慶
KUSUNOKI Kei



須東 裕基 □
SUDO Yuki



照沼 夢輝
TERUNUMA Yumeki

ファゴット

Bassoon



首席奏者
田吉 佑久子
TAYOSHI Yukuko



阿部 和輝 □
ABE Kazuki



鈴木 一志
SUZUKI Hitoshi



中川 日出鷹
NAKAGAWA Hidetaka

ホルン

Horn



客演首席奏者
丸山 勉
MARUYAMA Tsutomu



首席奏者
信末 碩才
NOBUSUE Sekitoshi



伊藤 舜
ITO Shun



原川 翔太郎
HARAKAWA Shotaro



村中 美菜
MURANAKA Mina

ソロ・トランペット

Solo Trumpet



オッタビアーノ・
クリストーフォリ
Ottaviano CRISTOFOLI

トランペット

Trumpet



首席奏者
大西 敏幸
ONISHI Toshiyuki



副首席奏者
犬飼 伸紀
INUKAI Nobuki



星野 究
HOSHINO Kiwamu

トロンボーン

Trombone



首席奏者
伊藤 雄太
ITO Yuta



副首席奏者
笠間 勇登
KASAMA Yuto



福島 莉那
FUKUSHIMA Hana

バス・トロンボーン

Bass Trombone



中根 幹太
NAKANE Mikita

ティンパニ

Timpani



首席奏者
エリック・パケラ
Eric PIEKARA



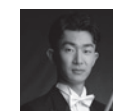
副首席奏者
池田 健太
IKEDA Kenta

パーカッション

Percussion



大河原 渉
OKAWARA Wataru



本間 雄也
HOMMA Yuya

□ 試用期間

楽団長
チーフステージマネージャー
ステージマネージャー
チーフインスペクター
インスペクター
ライブラリアン

伊藤 寛隆
阿部 紋子
長橋 健太/森田 大翔
佐藤 駿一郎
鈴村 優介/谷崎 大起
鬼頭 さやか/坂庭 史映/杉本 哲也

理事長 (代表理事)
副理事長 (代表理事)
専務理事 (代表理事)
常務理事 (代表理事)
理事 (業務執行理事)
理事

石塚 邦雄
五味 康昌
福井 英次
後藤 朋俊
別府 一樹
田村 浩章/戸所 邦弘/福本 ともみ
佐々木 経世/葉田 順治
福澤 宏哉/細谷 義徳

監事
評議員会会長
評議員

加藤 丈夫
津田 義久/島田 精一/小林 研一郎
荒崎 康一郎/青井 浩/梶浦 卓一
河北 博文/山口 多賀幸/久保田 隆
木村 恵司/石村 尊/大塚 直夫
村上 典史子/稲垣 尚/安孫子 正
西澤 豊/福満 一夫/中根 幹太
飯嶋 庸夫/北村 邦太郎/奥田 佳道
秘川 直也
平井 俊邦
熊谷 直彦/島田 晴雄

特別顧問
名誉顧問

テューバ

Tuba



柳生 和大
YAGYU Kazuhiro

ハープ

Harp



松井 久子
MATSUI Hisako

写真 ©井村重人

マネジメント・スタッフ

浅見 浩司/磯部 一史/江原 陽子
及川 ひろか/小川 紗智子/萩島 里帆
賀澤 美和/香取 春子/金田 雅子
小須田 萌/佐々木 文雄/澤田 智夫
篠崎 めぐみ/杉山 綾子/杉山 まどか
高橋 勇人/高橋 みゆき/田中 正彦
梶谷 祐子/中村 沙緒里/西田 大輔
西田 真菜/長谷川 珠子/樋高 雄太
藤田 千明/古館 順一/宗澤 晶子
山岸 淳子/和田 美希

チーフマーケティングオフィサー
シニア・パートナー

伊藤 治彦
新井 康允/永島 義郎/南部 洋一
吉江 信博

団友

青柳 哲夫/青山 均/赤堀 泰江
新井 豊治/伊藤 恒男/伊波 睦
宇田 紀夫/遠藤 功/遠藤 剛史
大石 修/寛 美知子/柏熊 由紀子
加藤 祐一/蒲谷 隆行/川口 和宏
川口 貴/菊田 秋一/岸良 開城
吉川 利幸/木村 正伸/小山 清
齋藤 千穂/佐々木 裕司/佐藤 玲子
菅原 光/高木 裕子/高木 雄司
高木 洋/高倉 理実/高山 智仁
田沢 烈/立川 和男/堂阪 俊子
富樫 尚代/豊田 尚生/中川 二郎
中里 州宏/永田 健一/中務 幸彦
奈切 敬郎/橋本 洋/畑井 紀代子
平賀 法子/福島 喜裕/本田 純一
松本 克巳/松本 伸二/三本 克郎
宮武 良平/三好 明子/森 茂
山下 進三/山科 淑子/渡辺 哲雄

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL.03-5378-6311

<https://japanphil.or.jp>

チケットお申し込み・お問い合わせ

[日本フィル・サービスセンター]

TEL.03-5378-5911(平日10時~17時)

※状況によっては営業時間が変更になる場合がございます。
予めご了承ください。

eチケット♪

<https://eticket.japanphil.or.jp/>

公式 X (旧Twitter)

@Japanphil

公式
アカウント公式
インスタグラム公式
Facebook

メールマガジン

日本フィル NEWS はこちらから登録！

日本フィル公式YouTube  / @JapanphilMovie

「2分でわかる！

／ 毎月10日・20日に／
お届け

大人のためのオーケストラ入門Plus+」

